

敗戦後引揚げ女性に行われた非合法の中絶に関する研究（3）

—女性福祉の観点から第三の引揚げ港に関する一考察—

○ 徳島文理大学 宮原 和沙 (005100)

キーワード：敗戦後引揚げ、非合法中絶、女性福祉

1. 研究目的

戦争そして敗戦はその時代を生きた人間の人生に大きな影響を与えたと言っても過言ではないだろう。戦争や敗戦を体験した時の年齢・性別・場所・環境等によっても、その後の人生が大きく変化した者たちが少なからず存在した。

海外から引揚げて来た邦人女性たちの中には、外国兵や現地住民によるレイプで妊娠させられた者や性病に罹患した者たちがいて、前者の女性を対象に密かに非合法の中絶が実施された。

本研究・報告は第二次世界大戦後の引揚げ女性への非合法の中絶に関する女性福祉論の継続研究であり、これまでの第一報¹⁾及び第二報²⁾に続く、第三報としてC港引揚げ女性に対して行われた非合法の中絶に関して取り上げる。また前述した通り継続研究であり、これまでと同一の研究目的に基づいている。即ち、この問題には女性にとっての福祉の側面があり、研究全体を通して約71年前のこの事件の全貌に迫り、女性福祉の観点から歴史を検証し意味を探ることにある。

2. 研究の視点および方法

引揚げ女性たちに行われた非合法の中絶は、当事者のプライバシー保護のためだけではなく、医師にとっては本来あるべき医の倫理に背く行為でもあった。そして当時、墮胎は刑法（1907年公布・翌年施行）において禁止されていた。このような事情から、非合法中絶に関する秘密は重視され、長い間、封印されてきた。

また、本研究においてはインタビュー調査を検討したが、事情を知るであろうと予測された者への調査が年齢等を理由に実現しなかった。

しかしながら、今回も残されている資料など用いる手段を利用し道を探った。

このようなことから、本研究は文献研究である。

3. 倫理的配慮

本研究は日本社会福祉学会の研究倫理指針に基づき、施設等の固有名詞は用いず、実際のイニシャルを避ける配慮をしている。

また、個人情報保護の観点から、資料（文章）の書籍が明らかにされなかったものの、

裏付けがとれているものについては当日報告する。

4. 研究結果

文献により、敗戦後、外国兵や現地住民のレイプにより妊娠させられて C 港に引揚げてきた女性たちに対し、国立 O 病院において非合法の中絶は実施されていた。しかしながら、その具体的内容については明らかではない。

5. 考察

C 港引揚げ女性に対して、非合法の中絶は実施されていたが、これまで以上に資料が残されていなかったこと、かろうじて手に入れることができた資料（文章）の書籍が明らかにならなかったこと等、文献調査は困難を極めた。残されている資料を基に、その実態を明らかにすることを目指したが、資料の限界の問題が存在したことは否めない。

また、本研究において、これまでの第二次世界大戦後の引揚げ女性への非合法の中絶に関する女性福祉論の研究同様に、各引揚げ地、非合法の中絶が実施された施設等は違っても、そこから導き出される結論に違いはないと考える。即ち、これまでの第一報及び第二報において述べたように、当事者である女性たちは予測される極度の生活困難は避けられたが、心理（精神）的・身体的な苦痛に耐えなければならず、女性の福祉のためになつたとこの出来事を片付けることはできない。

女性福祉の観点から、戦争によって女性の人権が蹂躪されたことを証言しているのがこの事件であり、戦後処理の一つの出来事として、更には日本だけではなく、グローバルな視野で女性福祉の歴史をとらえる上でも見逃してはならない問題である。

引用文献

- 1) 宮原和沙「第二次世界大戦後引揚げ女性に行われた非合法の中絶に関する研究（1）－女性福祉の観点から－」一般社団法人兵庫県社会福祉士会 調査研究委員会（編集）『兵庫社会福祉士 第14号』、一般社団法人兵庫県社会福祉士会 2013年、pp.80-89。
- 2) 宮原和沙「第二次世界大戦後引揚げ女性に行われた非合法の中絶に関する研究（2）－女性福祉の観点からもう一つの引揚げ港に関する一考察－」一般社団法人兵庫県社会福祉士会 調査研究委員会（編集）『兵庫社会福祉士 第15号』、一般社団法人兵庫県社会福祉士会 2014年、pp.78-86。

参考文献

- ・加藤聖文監修・編集『KINOKUNIYA ON DEMAND SERIES 海外引揚関係史料集成（国内篇）第4巻「舞鶴地方引揚援護局史」（舞鶴地方引揚援護局）』、ゆまに書房 2002年。